

学校教育目標	教職員の信頼と協力を基調とし、一人一人の生徒に人権の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の育成を目指す。
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》	特別な教育的支援の視点を重視した、生徒一人一人に応じた『わかる授業』、効果的な学習指導による学力の向上
《重点目標2》	自他を大切にす優しい心をもち、豊かな人間性を育てる教育の推進
《重点目標3》	健やかな体をつくる指導の充実、体力の向上

◆記入にあたっての留意事項
○ 別紙『2019(平成31)年度「指導の重点」全体構想』に示している重点項目から各学校・園で重点においた取組について記載すること
○ 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること
○ 小・中学校においては、スクールプランに位置付けている「学力向上に関する取組」、「体力向上に関する取組」、「その他学校独自で設定した取組」を必ず位置付けること
○ 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度に向けた改善点
関学 する向 取上 組に	【授業改善】 ◇<学校アンケート>「授業では、振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合 [80%以上]	【振り返りの設定】 ○授業の終わりに、本時の学習内容を振り返る活動を5分間設定する。振り返りシート等を活用し、「振り返り」の質の向上を図る。 ○授業改革部会を開催し、管理職および学力向上推進教員が取り組み状況について助言する。 ○学期末に教員・生徒アンケートを実施して授業改善の状況を把握し、全職員で分析結果を共有して次学期に繋げる。	B	○「授業では、振り返る活動をよく行っていたと思いますか」において、北九州市学力・学習状況調査の結果では80.6%であり、目標を達成することができた。 ○学力向上推進員の授業参観においては、若年教師(10年未満)を中心に参観し、授業準備や授業後の振り返りを確実にし、授業力向上を図ることができた。また、本時の授業内容を通信で振り返ることで、授業改善に繋げることができた。
	【数学科での授業改善】 ◇<学校アンケート>「数学の授業で毎回の振り返りを自分の力で書くことができる」について、肯定的な回答をした生徒の割合 [80%以上]	【思考力を高める振り返りシートづくりの推進】 ○全学年共通の振り返りシートを作成し、毎時間授業終わりの5分間、記述の時間を設ける。 ○生徒の記述をもとに数学科部会を開き、研究・指導方法を模索し、良いものは生徒に提示する。	B	○振り返りシートを自分の言葉で記入する生徒を育成することができた。 ○振り返りシートの4つのキーワードを意識して記入する生徒を増やすことができた。 ○来年度も引き続き振り返りシートを導入し、模範となる生徒のシートの掲示頻度を上げるなど、書くことに苦手意識をもつ生徒への手立てを模索する。
	【家庭学習定着】 ◇<学校アンケート>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答した生徒の割合 [70%以上]	【家庭学習の推進】 ○家庭学習推進部会を開催し、学習習慣の定着のために、優れた自学ノートを提示したり、学力定着サポートシステムの「基礎・基本定着問題」等を活用した週末課題を学年の取組とし、家庭学習の定着を図る。 ○生活ノートを活用した家庭学習の時間や方法について、担任が点検・指導を行う。また、学力向上推進教員から、具体的な改善点を指導・助言する。	C	◆「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」において、北九州市学力・学習状況調査の結果では、月～金は50.8%で土日は25.9%にとどまった。土日の家庭学習を充実させるための取組(週末課題等)を行っていく。次年度へ向けては、定着していない生徒への個別の支援を推進していく必要がある。
関体 する向 取上 組に	【授業改善】 ◇<生徒質問紙(19)>「体育の授業は楽しい」の「当てはまる」について、肯定的な回答をした生徒の割合 [100%]	【評価規準の具体を意識した授業改善の推進】 ○毎時間の体育授業の準備運動に、持久力を高めるランニングや筋力を高めるジャンプアップ運動を設定する。また、25分間以上の運動時間を確保する。 ○タブレットPCを活用し、運動が苦手な生徒が積極的に参加できる体育の授業づくりをおこなう。	B	○保健体育科の授業では、様々な体力向上の取り組みを行うことができた。 ○タブレットPCを活用することで、生徒自身が課題に気づき、解決に向けて意欲的に授業に取り組み、授業が活性化された。また、理解も深まり、生徒が思考する場面が多くあり、話し合い活動も充実したものになった。
	【運動習慣】 ◇<生徒質問紙(1)>「運動やスポーツが好き」の「当てはまる」について、肯定的な回答をした生徒の割合 [90%以上]	【授業や学校行事を通じてお互いを認め合う取組の推進】 ○体育科の授業で体力テストを実施する。入力や分析は研究・研修部で行い、結果を全職員で把握し、部活動や校外活動につなげる。 ○学年・学校単位でのクラスマッチを実施し、運動に対する関心・意欲を高めたり、体を動かす喜びが実感できるようにする。 ○視覚特支との交流活動にゆるスポーツを位置付け、運動が苦手な生徒の意欲を向上させる。	B	○体力運動能力に関する調査結果では男子が4種目全国平均を下回ったが女子は1種目以外は全国平均を上回った。 ○3年、2年はクラスマッチを行うことができ、運動に対する意欲を高めることが出来た。 ○1年生に関しては、視覚特別支援学校との交流も含めフロアバレーボールを行い、パラリンピックに対する興味関心を高めることが出来た。
関心 するの 育取 組に	【心の育ち】 ◇<生徒質問紙(1)>「自分には、よいところがあると思う」の肯定的な回答をした生徒の割合 [90%以上]	【教育活動全体を通じて自尊感情を高める。】 ○人権教育担当が5～6月にセルフエスティームテストを実施して生徒の内面的実態を把握・分析し、生徒理解を深める。 ○あいさつや校歌の指導により、学校や地域を誇りに思う気持ちを育て、自己有用感を高める。 ○視覚特支との「心のバリアフリー事業」や地域行事への参加を促すことにより、思いやりの心や自他のよさを実感する機会を増やす。	C	◆「自分には、よいところがあると思う」において、北九州市学力・学習状況調査の結果では69.2%であり、目標を達成することができなかった。特に、1年生では59.7%と低く、次年度も継続的に学校行事を通して取り組むとともに、各種調査等を分析し、学校独自で実施している「セルフエスティームテスト」の結果とあわせて、生徒の自己肯定感を育む取り組みを行ってきたい。 ○北九州視覚特別支援学校との「心のバリアフリー事業」は予定通り行うことができた
	【道徳科での授業改善】 ◇<生徒質問紙(3)(6)>「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答をした生徒の割合 [90%以上]	【道徳教育の推進】 ○道徳推進教師を中心に、生徒の実態や発達段階に即した内容項目を学期ごとに行い、年間計画に沿って学年・学級で重点的に取り組む。 ○道徳の教科化の趣旨を理解し、考え議論する道徳の授業づくりについて、校内で研修会を実施し、評価等に関して共通理解を図る。	C	○各学年で、生徒の実態に応じた内容項目を的確に指導することができた。 ○生徒の学習状況の把握をもとに、授業に対する評価と改善を行い、指導と評価の一体化を図った。 ○人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において、肯定的回答が95%となり、目標を達成することができた。 ◆「将来の夢や目標を持っていますか」において、北九州市学力・学習状況調査の結果では80.6%であり、目標を若干達成することができなかった。 ◆「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする場面があったと思う」において、北九州市学力・学習状況調査の結果では86.8%であり、目標を若干達成することができなかった。
用I にC 関T す機 器取 組活	【ICT機器の活用】 ○<学校アンケート>「学力向上に向けた授業改善に取り組んだ」の肯定的回答 [90%以上] ○<学校アンケート>「ICTを活用した授業改善に取り組んだ」の肯定的回答 [90%以上]	【ICTリーディングスクール校としての授業力向上】 ○ICTを活用した公開授業については、各学期に1回行う。また、互見授業週間を学期に1週間設定し、職員相互の授業力向上に努める。 ○全教科で一度以上はタブレットPCを活用した意見交流や発表等の授業に取り組み、実践事例集を作成する。 ○ICTリーディングスクール校として、高見小との合同研修会や校内の研修会を定期的に設定する。	B	○学力向上推進教員の支援により、職員の学力向上への意識が高まった。また、授業改善に向けての取組を深めることができた。 ○ICTリーディング校として、校内研修会や小・中合同研修会、学期に1回の公開授業を実施し、教師の授業改善のための取り組みを充実させた。公開授業は英語科・数学科・保健体育科で行い、タブレットを活用したワークショップ型の協議会も定着し、活発な議論が行われるようになり、授業改善・授業力向上に繋げることができた。
関業 する改 善取 組に	【業務改善】 ○勤務時間外の在校時間を平均で前年度より1割削減。 [10%削減] ○ペーパーレス化による紙使用量の削減。 [会議資料50%削減]	【業務改善の推進】 ○実施可能な定時退校日を設定するとともに、管理職及び職員相互による声かけを行う。 ○ICTを活用したペーパーレス会議や、必要な連絡事項等を掲示板で共有し、大幅な紙の削減と無駄な仕事を減らし、効率的な業務改善を図る。	B	○部活動チェックシートを活用し、活動時間と月1回の部活動休業日と土日のいずれか一方を休業日に設定し、顧問の先生と部員の負担軽減と健康管理ができた。 ○月2回の定時退校日を設定し、ワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善に取り組んだ。 ◆ICTを活用したペーパーレス会議は定着したが、紙使用量の削減までには至ってはいなく、裏紙活用等継続して取り組んでいく。